



認定NPO法人環境ネットワーク埼玉通信



E・N・S通信



埼玉県地球温暖化防止活動推進センター
Saitama Center for Climate Change Actions



Index

表紙寄稿：
早稲田大学理工学術院建築学
科教授
高口洋人氏
環境ネットワーク埼玉より
会員活動の報告
事務局からのお知らせ



2030年 都市の低炭素化への戦略は

早稲田大学理工学術院 建築学科教授 高口洋人

フランスの首都パリで COP21 が開催されました。日本政府は 2030 年度までに 2013 年度比で温室効果ガスの排出量 26%削減という目標を掲げました。温暖化に加速化している現状に対して世界は温暖化抑制、つまりある程度の温暖化はもはや仕方なく、その範囲を 2℃以内に抑えようということが目標になっています。このような状況に対して、温暖化を抑制する緩和策と温暖化をどのように受け入れるのかという適応策の議論が世界中で始まっています。

私の専門である建築分野に関して言うと、建物内でのエネルギー消費量が、我が国のエネルギー消費、CO2 排出量において多くを占めることはご存じの通りだと思いますが、建築物の省エネルギー対策、断熱強化や太陽エネルギーの利用、設備のエネルギー効率の改善などは、エネルギー消費を抑制する緩和策であると同時に、温暖化が進んだ時、あるいはエネルギー価格が上昇した場合に備えた有効な適応策でもあります。



実は、民生業務部門では 2005 年、家庭部門では 2011 年からエネルギー消費量が減少傾向です。これまでの対策の成果という見方もありますが、東日本大震災の影響、あるいは石油価格高騰による電力価格上昇の影響も大きいように思います。建築物におけるエネルギー消費の問題は、単に技術革新で効率が上昇すれば解決するという単純な問題ではなく、家庭の所得やエネルギー価格などに左右され、経済も含む複合的な問題であるといえます。

このように環境問題は、経済や社会、そして技術の問題でもありますので、経済学、社会学の専門家やエンジニアが協力しないと解決できません。今求められるのは、このような横断的なソリューションをパッケージ化して提供していくことです。日本と欧米では技術的な差はありませんが、この面が不得意で遅れているという自覚を持ち、対処していくことが大切ではないかと思います。



● 環境ネットワーク埼玉より

都市と森をつなぐ環境事業推進協議会活動報告

今年度は、都市と森をつなぐ環境事業推進協議会と名を改め、主に秩父市吉田の山逢の里プロジェクトサイトで、補助金等を活用し環境学習やグリーンツーリズムのプログラム作りとその試行を実施しました。秋の“森のGoodJob体験”では、さいたま市在住の親子対象に、プロジェクトサイトにおいて手ノコで木を切る体験、丸太を切って薪を作る体験、そして木工体験などの他に、特に今回は、地域の方との交流を意識したプログラムを提供しました。今里山や森林地域では獣害が大問題となっています。鹿や猪が里地に出没し、農作物や樹皮を食べて



薪作り体験の様子



手ノコ体験の様子

しまし大きな被害を与えています。獣害対策として罠をしかけ捕獲しますが、近年獣の増加に対策が追いつかないのが現状のようです。今回は、地元の猟師の方から獣害の話をしていただき、特別にジビエも食することができました。参加者からは肉に臭みがなく、思ったよりも柔らかく美味しかったと好評でした。今後はこのプロジェクトサイトを企業にも利用してほしいと思い、企業対象のCSR意識調査を行いました。アンケート結果によると、90%近くの企業が森林整備や保全活動に取り組む場があったら参加検討したい、理由としては、40%程度が社会貢献と回答されていました。今後企業の参加を促すためには、参加しやすい仕組み作りと受け入れ態勢の整備が課題であると分かりました。

小学校におけるESDの視点を取り入れたモデルプログラム作り、ワークショップを行いました

環境省からの「地域におけるESDプログラム作り」を受託し、今年で3年目となります。今回は県内でも環境教育やESDで優れた取組を行っている、越谷市の大袋東小学校のご協力を得て地域プログラムを作りました。大袋東小学校では総合の時間に全校をあげてESDに取り組んでおり、特に5年生は小学校の敷地内にあるならばやしの中のビオトープに、生きものや訪れる人にとってどうしたらよい環境になるか44時間かけて取り組んでいます。



大袋東小学校における授業の様子

一方新座市にある石神小学校では、昨年度地域住民の協力を得て、学校の敷地内にビオトープを作りました。しかし、これからどうビオトープを活用していったらよいのかが悩みでした。そこで、石神小学校の生徒、教員、PTA、地域住民、行政の協力を得て、もっとビオトープに生きものをよぶためにはどんなことができるのか、それぞれの立場で意見を交わすワークショップを開催しました。当日は40人ほどが集まり、自分たちのビオトープを活性化するために多くのアイデアが出され、今後のビオトープ活動の展開につながりました。



ビオトープ観察の様子



ワークショップ発表の様子



埼玉県地球温暖化防止活動推進員 地域研修会を開催しました

昨年に引き続き、県内3箇所地域研修会を実施しました。講義では埼玉県水素エネルギー普及推進協議会の光島教授から「水素エネルギー技術と二酸化炭素排出量抑制」について詳しく解説いただき、また「ライフスタイルと温暖化問題との関係」については、ワークショップをとおして討論しました。環境科学国際センターでは「触れる地球」を用いてリアルタイムの気象状況や生きもの分布等について見て触って学ぶことができました。



光島教授講演の様子



触れる地球体験の様子

平成28年度埼玉県地球温暖化防止活動 推進員新任予定者研修会を開催しました



ワークショップの様子

次年度推進員として委嘱予定の方に対して、1月31日（日）に研修会を開催しました。

午前には「地球温暖化現状の基礎知識とその対策」について、埼玉県環境科学国際センター嶋田知英氏に解説を頂きました。午後のワークショップは、専修大学の犬塚裕雅氏をファシリテーターとして「地球温暖化防止活動推進員として、どのように地域で活動を行うか」をテーマに、活発な意見交換やアイデア出しが行われました。アンケート結果からは、他の人との交流が出来てよかったとの意見があり、今後の活動に期待できる研修会となりました。

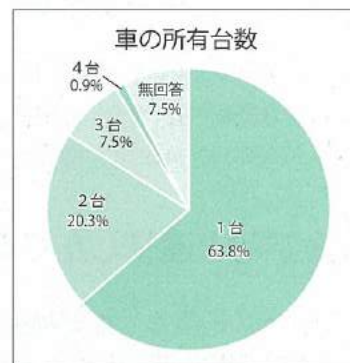
自家用車の利用状況についてのアンケート調査を行いました

環境省の補助事業「地域における地球温暖化防止活動促進事業」を活用し、毎年温室効果ガスの排出実態の把握、分析業務を行っています。今年度は、これまで家庭からの自動車の利用や排出状況の実態が把握されていなかったため、埼玉県内の家庭における自家用車の利用状況について調査を行いました。

有識者や推進員で構成したワーキンググループを設置し、アンケート方法や調査票の内容、結果の分析方法等を検討しました。調査は紙媒体で行い、県内の市民や様々な環境保全団体の協力を得て、550件のアンケートを回収しました。

自家用車の購入に際し、選択理由として価格が一番でしたが次に燃費を重視していることが判明しました。また、約半数が条件によってカーシェアリングを利用したいと考えているなど、これまで得られなかった貴重なデータが集めることができました。結果は下記ホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

<<http://www.kannet-sai.org/about/activities/2015/haishutu27.html>>



第6回低炭素まちづくりフォーラムin埼玉～つながろう 広がろう エコの環～

第6回目を迎えた低炭素まちづくりフォーラムは、温暖化防止月間である12月に大宮ソニックシティで開催され、延べ約250名もの参加を得ることができました。

基調講演には早稲田大学理工学術院の高口教授に環境とアーキテクチャーについて解説いただき、午後はくらしのエコ・低炭素な地域づくり・化学物質と食・生きものと環境教育・ESDの5分科会を開催し、パネルディスカッションやワークショップ等をとおして議論を交わしました。パリでのCOP21開催時期と重なっていたこともあり世間の注目度も高く、当日は埼玉新聞やテレビ埼玉に取材いただきました。特に、学生が主体となって運営したESD分科会では多くの学生参加を得ることができ、多世代間で議論ができたことも大きな収穫でした。



写真上：基調講演の様子

写真下：分科会の様子



うちエコ診断を実施しました

当団体は「首都圏ネットうちエコ診断実施事務局」として埼玉県だけではなく、東京都や千葉県でもうちエコ診断を実施しています。今年度は、うちエコ診断士が新規でさらに7人増え、合計40名と全国的にも診断士の多い実施事務局となりました。

昨年度に引き続き、生活協同組合コープみらいとの連携による組合員を対象にした診断と、さいたま市地球温暖化対策地域協議会との連携によるさいたま市民を対象にした診断を実施し、合計170件の診断を行うことができました。受診後のアンケート結果からは「車を燃費のいい車に買い替えた」「暖房の設定温度を低くした」「給湯器を高効率のものに買い替えた」など具体的な行動に結びついたものもありました。うちエコ診断の結果から、CO2削減量は49.9t-CO2/年と大きな効果に結びつきました。



診断の様子

中小規模事業所向け省エネ診断を実施しました



照明設備診断の様子

今年度も引き続き、事業所向け省エネ診断事業を実施しました。

埼玉県が実施している省エネナビゲーター事業の事務局として、年間エネルギー使用量が15～1,500kWhの中小規模事業所向け省エネ診断をサポートしました。省エネ診断の受診は県の補助金制度の要件でもあったため、早々に91件の診断が終了しました。省エネナビゲーターの診断時の対応やレポートの評判も良く、年々診断のスキルが向上しています。また、環境省の補助事業を活用

した、年間エネルギー使用量が15kWh未満の店舗や工場、事務所等の小規模事業所向け省エネ診断も、今年度は特に商工会の協力をいただき、目標通り50件を診断しました。今年度で4年目を迎えたため、集大成として事業報告会も実施しました。



ナビの会 勉強会の様子

大学等と連携したCO2削減アドバイス事業を実施しました

環境省の補助金「地域活動支援・連携促進事業」を活用し、大学を含めた地域コミュニティにおけるCO2削減アドバイス事業を行いました。今年度は地域でのCO2削減の活動をさらに広げるため、特に埼玉県の東部地域を中心として、共栄大学、春日部市武里団地や地域の自治体、団体、企業などと連携をしながら家庭の省エネに関する様々な啓発活動を行いました。

家庭の省エネの見える化を進めるうえで、従来の環境家計簿を見直した「冬のエネルギーダイエットノート」を独自に作成し、冬の12月から2月にかけてエネルギーの使用状況を記録してもらいました。冬の省エネについてのパンフレットと併せて配布したこともあり、昨年度より電気やガスの使用量を減らすことが出来たという結果が多く寄せられました。

さらに、省エネナビによる実測やWebを活用した排出実態調査も行いました。集計した結果はホームページ等で情報発信しますので、是非ご覧ください。



低炭素杯2016

今年度で6回目となる低炭素杯2016が2月16～17日にかけて開催されました。全国1,993団体から選ばれた企業、学校、NPOなどファイナリスト38団体によるプレゼンテーションが行われ、結果、文部科学大臣賞（社会活動分野）として、埼玉県からフィンモーターズスクール様を受賞されました。38団体のプレゼンテーションや詳細はWeb上の特設ページからもご覧いただけます。（<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>）



● 会員活動の報告

埼玉お日さまクラブ活動報告

今年度お日さま発電所7号機は、昨年度と同様自治会館に設置しました。設置場所は、さいたま市浦和区にある前地自治会館です。前地自治会館は、地域の防災拠点に指定されており、災害時の避難場所にもなっています。会館は3年前に建て替えをした際に地中熱システムを導入しており、そのころより災害時に備え太陽光発電を設置したいと検討してきました。今年度より、さいたま市で市民共同発電設置に対して補助制度が始まったため、お日さまクラブの趣旨を理解していただき、一緒に市民共同発電所を設置しました。今回の太陽光発電の導入により地中熱利用と合わせて、先進的な省エネ自治会館となりました。設置も無事終わり、2月13日に点灯式を開催し、清水さいたま市長にも来賓として出席いただきました。太陽光発電は、最近家庭の設置件数率が下がっていると聞きます。今後も自然エネルギーの推進に向けて市民共同発電等の取組を通して普及啓発していきたいと思えます。

また、平成28年4月から電力小売自由化が始まります。それに向けて私たち市民はどのように考え対処していけばよいのかを学習するためのセミナーを開催しました。今



みんな電力㈱大石代表取締役による講演の様子

回はNPO法人太陽光発電所ネットワーク埼玉地域交流会と共催で、1月30日「埼玉自然エネルギーセミナー」を開催しました。当日は、「みんな電力㈱」の大石代表取締役をお迎えし、私たちはグリーンな電力を買えるのか、また新電力に売ることができるのかについて、いくつかの事例も交えながら学習しました。当日は定員を上回る参加者で関心の高さが伺えました。未だ始まったばかりの小売電力事業ですが、消費者という立場で、今後情報収集や学習を高め賢い選択をすることが重要と感じました。



写真上：前地自治会館
写真下：点灯式の様子

団体正会員紹介

公益財団法人埼玉県公園緑地協会

◆協会概要◆

代表者：理事長 古澤広道

所在地：埼玉県さいたま市大宮区高鼻町4丁目130番地

設立：昭和46年4月

事業内容：埼玉県内の公園、その他の公共施設の管理運営を通じて、緑豊かな憩いの環境を創造するとともに、スポーツレクリエーション等の場を提供し、県民の健康の増進に寄与する事業を行っています。

当協会は、浦和レッズの本拠地である埼玉スタジアムや、2019年ワールドカップラグビー大会の開催地として決定した熊谷スポーツ文化公園、県内4つの水上公園など、県内19箇所の公園施設を管理している公益財団法人です。

公園はさまざまな方が利用されますので、不特定多数の利益の増進に寄与するための公益的な事業を中心に管理運営を行っております。緑豊かな憩いの場を提供するため、四季折々の草花による花壇整備や花木の植栽を行う緑化推進事業や、豊かな公園内の自然を利用した体験学習事業、青少年の健全育成を目的とした陸上大会やサッカー大会などのスポーツ普及事業などを実施しております。

その中のひとつとして、公園内の自然や動植物についての観察会やリサイクル事業を実施することで、環境に対する関心を高めることを目的とした環境学習事業を実施し、環境に対する啓蒙活動にも努めております。

今後も、より多くの皆様に安心・安全で快適に公園を御利用いただけるよう役職員一同、力を合わせて頑張っております。



事務局からのお知らせ

■新パンフレット「つくって! 学ぼう! 創エネ・省エネスマートライフ」

今年度新たに、ペーパークラフト型のパンフレットを作成しました。切り取り線に合わせて紙を手で切り抜き、組み立てていくと戸建の住宅ができていきます。これは単なる住宅ではなく、家の中を覗くと様々な省エネ術が載った省エネ住宅になっており、親子で楽しく作りながら学べるツールになっています。イベントの際にこの工作教室を開くと、子ども達が順番待ちをするほど好評でした。



子どもであふれる工作教室コーナー



作成したパンフレット

また、冬の省エネ対策として「省エネで“寒い冬を”暖かくのりきろう! ~体もお財布もぼっかぽか~」パンフレットを新たに作成しました。家庭内でできる冬の省エネ術や、電気検針票の見方のポイントなどが掲載されています。いずれも当団体ホームページの“貸出ツール”からご覧いただくことができます。ご活用の際は、事務局までご連絡ください。

■埼玉県条例指定NPOになりました!!

平成27年10月16日に「埼玉県指定特定非営利活動法人」の指定をいただきました。皆様のご支援とご協力に心より御礼申し上げます。指定により個人県民税の寄附金税額控除の対象事業者となりました。当団体に個人(埼玉県在住)で御寄付をいただいた場合の個人県民税の控除額は(寄付金額-2千円)×4%になります。ぜひ、ご活用ください。

インターンシップを受け入れました

夏休みに、跡見学園女子大学から2名のインターンシップを受け入れました。受け入れ期間中、インターン生は研修会やイベント出展でのお手伝いや、イベント時で使う環境クイズの作成等を経験しました。また、関係者との挨拶の際は、緊張しながらもしっかりと名刺を渡すことができました。これから社会に出たときに、今回の経験が役立つことを期待したいと思います。



★会員募集★

活動を支援して下さる会員を募集しています!
詳しくは事務局までお問合せください。
※市民共同発電所への寄付も随時募集中。

	個人	団体(非営利)	団体(企業)
正会員	5,000円	5,000円	50,000円
賛助会員	3,000円	3,000円	10,000円

*会費は年会費です(年度更新)。
*正会員は社員として議決権が付与されます。
*個人の賛助会費及び寄付は、税の優遇対象です。

■表紙の写真より■

気持ちよく晴れた2月下旬に、さいたま新都心から大宮方面を展望しました。

編集・発行

発行日 2016年3月31日

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター/認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎3階

TEL: 048-749-1217 FAX: 048-749-1218

<http://www.kannet-sai.org/index.html>

閉館日: 土・日、祝日 開館時間: 9時~17時

情報やお知らせ等、是非お寄せください。

